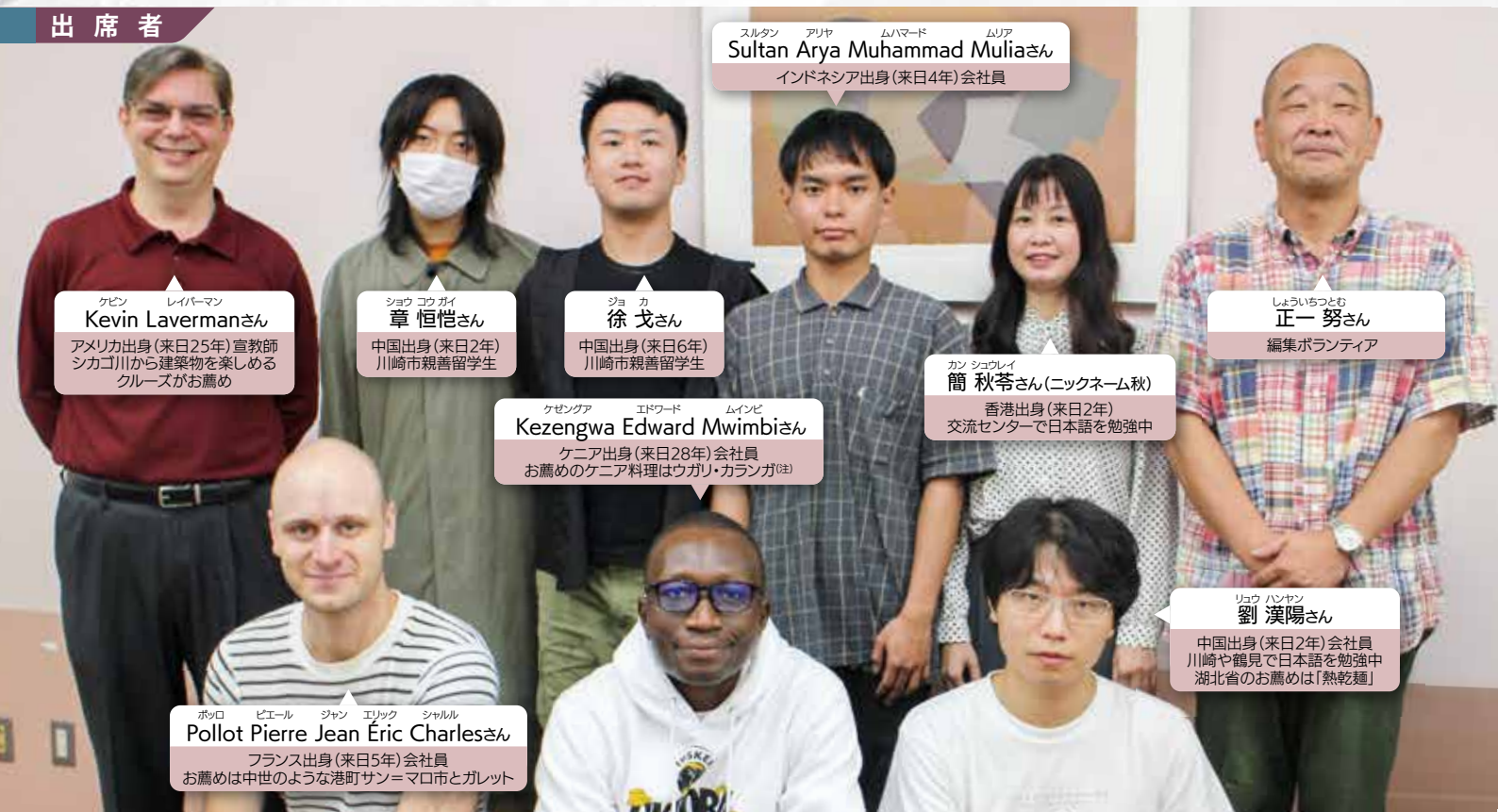


「日本で暮らしてみたら」

川崎市国際交流センターの機関紙「SIGNAL」は、前身の「KIAN」も含めると情報を発信し始めて35年になります。日本で暮らしている外国人の皆さんに、日本で感じたことや情報収集について話していただきました。話は交流センターへの期待にもおよびました。(座談会は2025年10月4日に開催)

出席者



スルタン アリヤ ムハマード ムリア
Sultan Arya Muhammad Muliaさん
インドネシア出身(来日4年)会社員

ケビン レイバーマン
Kevin Lavermanさん
アメリカ出身(来日25年)宣教師
シカゴ川から建築物を楽しめる
クルーズがお薦め

ショウ コウ ガイ
章 恒愷さん
中国出身(来日2年)
川崎市親善留学生

ジョー カ
徐 戈さん
中国出身(来日6年)
川崎市親善留学生

ケゼンギア エドワード ムインビ
Kezengwa Edward Mwimbiさん
ケニア出身(来日28年)会社員
お薦めのケニア料理はウガリ・カラング(注)

カン ショウレイ
簡 秋彦さん(ニックネーム秋)
香港出身(来日2年)
交流センターで日本語を勉強中

しょういちつとむ
正一 努さん
編集ボランティア

ポット ピエール ジャン エリック シャルル
Pollot Pierre Jean Éric Charlesさん
フランス出身(来日5年)会社員
お薦めは中世のような港町サン＝マロ市とガレット

リョウ ハンヤン
劉 漢陽さん
中国出身(来日2年)会社員
川崎や鶴見で日本語を勉強中
湖北省のお薦めは「熱乾麵」

(以下敬称略)

日本に来て感じたこと、 驚いたことは何ですか？



ピエール: 日本では電車に乗る際、降りる人が先に降りてから乗るのが当たり前ですね。海外では当然ではないので、そういう他者への配慮といった日本独特の「気遣い」「暗黙のルール」といったものに戸惑いました。あと、出身地のブルターニュ地方(フランス西部)に比べ、夏の湿度が高くて汗だらけになっちゃうとか、まあ5年経ってもきついんですね。

章: 日本人はルールを守って、人と人との境界を尊重すると感じています。例えば、勝手にプライベートなことを聞かないので気が楽です。この間、満員電車が事故の影響で止まった時、暑くても周りの人は黙って文句も言わないし、女性が「気分が悪くなった」と言うと、みんな自然と窓際まで場所を空けて、ちょっとびっくりしました。

ケビン: 来日して25年間、故郷のシカゴと日本を行き来する中で、毎回感じるの、日本の公園とか道とかレストランとか、ずっと変わらずきれいということ。ごみの処理も上手いし、サービス態度も本当に優れているなと感じています。西洋人の自分中心?と違って、相手を考えて自分の行動を起こすという考え方は本当に独特だなと思います。相手、その周りの人たちの思いを探って、自分の行動や言葉を選んで生きるという東洋人の考え方は、素晴らしいと思います。そこに驚きというか、関心があります。



徐: ルールをすごく守るんだなって最初に思いました。運転するんですけど、みんな追い越しや割り込みをしないで、右折レーンですごく並んでいてもずっと待っています。融通を利かされることも我慢しすぎかなと思う時もあります。また、中国は街中にたくさ

んゴミ箱が置かれているけど、日本は置いてないことに驚いて、でもきれいですよね。自分でゴミを持ち帰ることを大事にしている、すごいなって。



アリヤ: 来た当初は高知で、自然がいっぱいでしたが、川崎はめっちゃ都会で、どこも人混みで、どこにでも電車で行けて、利便性がいいです。あと、インドネシアは誰とでもすれ違う時「おはようございます」とか言うんですけど、日本では見知らぬ人と挨拶を交わすことがないので、人間関係を作るのが難しいかな。

劉: 日本は街がきれいで、電車の中でも本を読んだり、スマホを見たり、静かです。安心できます。私の国は街が賑やかで、電車の中でも大声で話をしていて、違いを強く感じました。もう一つは、日本人は時間を大切にしている、電車やバスの正確さもすごいと思いました。でも、当初はどの電車に乗り、どう乗り換えればよいかわかりませんでした。複

数の鉄道会社に運営され、蜘蛛の巣のように入り組んだ路線図、大きな駅の構造にも戸惑いました。そして、あらゆる場所に多言語の表記や音声案内がある日本の国際化にも驚かされました。来たばかりの外国人も安心できます。



秋:日本は部屋が広く家賃が安いです。香港はめっちゃ狭い。それに、香港の夏は長くて春と秋が感じられませんが、日本は四季がはっきりしているから変化を楽しめて、とても嬉しいです。

大変なのは粗大ゴミを捨てる時。香港はタンスなんかは外に出しておく、必要な人が持っていくこともあって、お金がかかりません。

章さんの場合と違ってびっくりしたのは、電車で体調不良でしゃがみこんだ人に、周りは誰もフォローしなかった。みんな体調不良だったのかもしれないね。(笑)

エドワード:ケニアの待ち合わせは、30分、1時間遅れる「ケニアンタイム」が普通です。日本に来て、時間ちょうどに電車が来るのは驚いたし、もう一つは安全性。夜道を歩いても当然人は襲って来ないし。カフェにいる時、貴重品を置いたまま(席を)離れるけど、あれはケニアでは無くなっちゃう。今でもさすが日本!と思うのは、満員電車で後ろポケットから財布が半分出ること。他の国ではアウトですね。

食べ物で、刺身、卵、野菜の玉ねぎ、キャベツなんかは生のままで食べるのに驚いて、最初は全然だめでした。ケニアでは、しっかり火を通してから食べるのが普通ですから。

日ごろ、どこから 情報を得ていますか?

ピエール:週に一回ほどYahoo! Japanでニュースを読む程度です。

章:学校から「生活情報」などのお知らせをもらっています。また、中国のSNSからも日本の情報を得ています。「SIGNAL」は知っていて、出てくる日本語は難しいですが、日本以外の国の情報や外国人が日本で何をしているかのインタビューはおもしろいです。



ケビン:確かにアプリなどのデジタルツールも多用していますが、「SIGNAL」など紙の情報誌もなくなってほしくな

いですね。ページをめくって、手に取って確かめることができますから。交流センターに置いてある英語の雑誌やチラシは持ち帰ってチェックしています。

徐:日本のメディアにこだわらず、中国メディアからも情報を得ています。

アリヤ:FacebookやTikTokなどから情報を得ています。

劉:スマートフォンでアプリを使ったり、公式のウェブサイトを見たりして情報を得ています。銀行や病院の場所をGoogleマップで検索しています。



秋:ネットやアプリから情報を入手しています。電子情報だとすぐに翻訳してくれますから。私は日本語が苦手なので、タブレットで翻訳アプリを使って日本のメディアの専門的な情報を読んでいます。中国メディアから情報を得ることも多いですね。

エドワード:デジタルとアナログを使い分けています。デジタルは主にX(旧Twitter)で、川崎市もアカウントを持っているんですよ。川崎市のホームページから登録した災害アプリで、熱中症や台風の情報もみられます。アナログでは川崎市の「市政だより」を読みます。また、新聞を購読していて、そこには全国版と地域の情報も入っています。(※出席者が利用しているSNSは、インスタグラム4人、X(旧Twitter)2人、TikTok(ティクトック)は1人、Yahoo!1人だった)

交流センターに、今後どのような 情報発信を期待していますか?

ピエール:SNSでマンガや絵を使うと、読み手に届きやすいと思います。

章:私も公式サイトで、マンガ形式での情報発信に期待します。文章にルビをふっているのは逆に読みにくいです。駅など、より多くの人が目にする場所でセンターの存在をPRするのもいいですね。地域のイベント情報も提供してほしいです。

ケビン:テーマ別の情報発信は外国人にとって非常に参考になります。例えば、どこで日本語を学べるのか、賃貸、子育て、医療、文化、川崎市の魅力スポット、そういうテーマの雑誌、チラシ、紙媒体の情報発信も続けてほしいです。



徐:交流センターの存在を知ると、ホーム

ページを見てもらえる機会も増えるでしょうから、駅にセンターの存在を知らせるポスターを掲示してもらいたいですね。役所などに掲示しても、ほとんど行きませんから。地域のお祭りなどもセンターが発信してくれると嬉しいです。

アリヤ:交流センターからネットで、日本語を学習する会やさまざまなイベントの情報を発信してほしいです。

劉:花火大会、祭り、日本語学習の機会などをネットで発信してほしいです。

秋:参加しているセンターの日本語講座や日本語サロン、外国人向けの就職活動セミナーなどの情報以外では、医療に関する講座や各種イベント情報を発信してほしいです。とくに医療面で、病院での医師の説明がわかりにくい。自分からも病気のことや気持ちを伝えきれず、もどかしさを感じます。

私も駅などで、センターをPRしてもらえると嬉しいです。みんなが頻繁に利用する場所での情報発信が重要だと思います。



エドワード:やはり病気に関することや、ゴミの出し方にはとても苦労するので、そういう情報発信はぜひお願いしたいですね。

あと、交流センターへの期待として、一つ目は、「専門的な相談窓口の多言語化」です。例えば、法律相談、税金の申告、不動産契約など、専門用語が多くて日本人でも難しい手続きについて、母国語で相談できる専門家(弁護士、税理士など)と繋いでくれるサービスがあれば、非常に心強いです。行政手続きだけでなく、生活の深い部分でのサポートがあると嬉しいです。

二つ目は、「日本人市民と外国人が自然に交流できる機会」をもっと増やしてほしいです。「交流イベント」として特別な場を設けるより、地域の清掃活動や防災訓練、趣味のサークルなどに、外国人住民が参加しやすくなるような働きかけがあると、日常的なレベルで交流が生まれると思います。地域のさまざまな団体と外国人住民との「橋渡し役」になってくれると嬉しいです。

将来的には、外国人が「支援される側」だけでなく、自らのスキルや経験を活かして地域に貢献できる「担い手」となれるようなプログラムにも期待しています。



(注)ウガリはトウモロコシ粉などで作られた主食で、カラंगाはトマト、玉ねぎ、ジャガイモなどを煮込んだシチューのような料理。